

知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【日時】平成27年5月29日（金）

午後1時30分～3時30分

【会場】牧之原市相良総合センター「い〜ら」ホール

1 出席者

- ・ 発言者 牧之原市において様々な分野で活躍されている方
6名（男性3名、女性3名）
- ・ 傍聴者 247人

2 発言意見

	項 目	頁
発言者 1	牧之原市に広がる花・緑の活動について	3
2	子育て支援について	3
3	茶々若会の活動報告	8
4	お茶うけ屋について	10
5	富士山空港を核としたまちづくり	18
6	地域防災について	20
傍聴者 1	ジオパークについて	28
2	少子化について	29

【県知事挨拶】

皆様、こんにちは。今日は知事広聴にたくさんの方々が、6人の地域のリーダーの皆様とともに御参集賜りましてありがとうございます。

知事広聴、実は平成21年から大体年に6回ぐらいやっているんですけども、地域の方々の御意見を賜りたいということで、静岡県は広うございますので、なるべく遠いところからということでやっていたんですけども、こちらは空港の関連でよく来ていたんですけども、しっかりと地域の方々の御意見を聞く機会が、気がついたらやってなかったということで、今回はこちらに参りました。

ただいま私は移動知事室のただ中におります。移動知事室というのは、知事室は静岡市の真ん中の4つの建物の東館の5階にあるわけですけども、県の仕事というのは、書類を見ることだけではなくて、実際は生活や産業やさまざまな現場にありますので、その現場に行ってお話を直接聞いて、そこで解決できるものはその場で解決してしまうということで、特に遠いところにおきましては、行って帰るだけで1日かかる場所もございますものですから、泊まりがけでやっているということでございます。今日は移動知事室の2日目ということでございます。

牧之原近辺を回りますと同時に、牧之原で製茶業を営んでいる方が、おいしいスイーツ、クッキーなどをお茶とともに作られている。そこのお茶を供給されている方のお話をお聞きし、さらに世界で花のまちとして牧之原はデビューを昨年したわけですけども、牧之原市の女神を見てまいりました。

また一方、そう遠くないところに浜岡の原発もございますから、今日はもしものときには現場の本部になりますオフサイトセンターというのが、今空港のすぐそばで建設中がございますが、その現場も見てこちらにやってまいりました。

これは広聴ということで、地域の皆様方のお話を承って、そしてこれを県政に生かしていくための集まりであります。ただ聴きっ放しでは決してありませんので、この点だけはお約束をしておきます。ですから何か決断するときには、我々の中でしっかり検討した上で決断するというので、決められるものはすぐに今日の帰り道、あるいは明日にでも、あるいはこの場でも決められるものは決めるということで、決められないものは持ち帰りまして、必ず御返答を申し上げますと、そういう中身を持った広聴会ということでございますので、今日はしっかり勉強させていただき、それが牧之原の市政の発展になりますように、この2時間が充実したものになりますようお願いを申し上げます冒頭の挨拶とい

たします。どうぞよろしくお願いいたします。

【発言者 1】

私は、牧之原市花の会会長の発言者 1 と申します。よろしくお願いいたします。

まずは花の会の紹介からさせていただきます。牧之原市花の会は、相良花の会と榛原町花の会を母体に、平成 18 年 4 月に設立されました。現在会員は 260 名、19 団体、個人会員 7 名で道路沿いや公園内、社会福祉施設などの花壇 36 カ所の管理を中心に活動しています。活動の長い会員は 30 年以上活動を続けています。健康で楽しく活動しているから長く続けられることができたと思います。そして活動を応援してくださる多くの方々がいることも大きな力です。

昨年の花のまちづくり国際コンクールでは、市民の皆様の日頃からの活動や御協力で、最高評価の「5 つ花」をいただくことができました。ありがとうございました。茶園や水田の広がる風景のすばらしさ、アダプトロードやリバーフレンドで活動される皆様がつくり出す風景、春の勝間田川の桜や、秋の坂口谷川の彼岸花、休耕田に咲くコスモス、地域の皆様の思いが、努力が、より一層素敵な風景をつくれます。

今日、会場に活動していらっしゃる皆さんがおりますか。

私たちはカナダでの表彰式に牧之原市の風景として、茶園や海、坂口谷川の彼岸花の写真を持って行きました。またカナダで見た景色、芝生の広がる風景は気持ちのよいものでした。幼稚園の芝生の園庭、地域の皆様が手入れして下さる公園の芝生は、審査員に強い印象を与えました。今年度は静岡県グリーンバンク様の御支援で、園庭 2 カ所、広場 1 カ所の芝生化事業が予定されているそうです。カナダで見た芝生の景色が牧之原市にも広がるといいですね。

コンクール、表彰式を終えて、改めて牧之原の良さ、牧之原らしさを考えるようになりました。周りの風景に合った花壇づくり、花壇だけではなく、牧之原市に広がる花・緑の活動、それらを通して人と人がつながり、元気いっぱいのまちに花いっぱい美しい町になるよう、今後も活動を続けていきたいと思えます。ありがとうございました。

【発言者 2】

皆さん、こんにちは。みらい子育てネット牧之原の前代表ですが、今日は参りました。よろしくお願いいたします。発言者 2 と申します。

私がみらい子育てネットに入ったのは、友達からのお誘いを受けてからだったんですが、きっかけは子育てって自分一人ではできないなというのを、もうとつても無理だって思っ

たからです。独身時代は子供に関わる仕事についていたんですが、それでもやっぱり自分の子供は自分で見たいと、自分で見ながら育てたいという思いがありました。主人の理解もありましたし、友達も割と家にいるという友達が多かったので、少しずつですが仕事をしながら子育てネットの活動も進めて、楽しんで過ごすことができました。

みらい子育てネットというのは、「まちの子はみんなわが子」を合い言葉に全国的に活動をしている団体です。全国組織ですが、県も連絡協議会という組織があります。ですが、年々会員の減少はやっぱり否めません。ですが、私たちの牧之原では、そのまま若いお母さんたちをどんどんやりたいことをやりやすいように、今、支援をして進めてまいっております。

今年、私の一番下の息子が義務教育を終えまして、生まれてからどこへ行くにもその子連れて活動や会へ参加してきていましたので、活動に対しては理解してくれていると思っています。児童館と放課後児童クラブにお世話になりながら、子育てネットの会長と事務局を何年か続けてまいりましたけれども、昨年からは現会長に受けていただきました。

現会長は保育士の正規職をやめて、今しかできない子育てに専念している方なので、隣の発行者 3 会長の率いる茶々若会の核メンバーとしても、まちづくりに活躍をしている方でもありますけれども、その現会長が会長になってから、今まで紙ベースで発信をしていたのが、データでの発信で人とのつながりを今広めてくれています。

現在、子育てネットには 22 のサークル団体があります。私たちは子供やお母さんたちの居場所づくりや場の提供を行っています。詳しくはこの緑の「パパママ子育てだいじょうぶっく」というのが、また新しく今年度の 4 月にリニューアルされたのですが、この表紙もサークルのお母さんが書いてくれました。これはこの中に詳しく活動内容が載っていますので、市の窓口などで聞いていただいて、中身を見ていただいて、ぜひ活動に御近所の子育て中のお母さんたちをお誘いしていただいて、そして皆さんもできればというか、本当にぜひ参加していただきたいと思っています。

今月 5 月にサークル活動で今紹介したサークルで、マミーズリフレッシュ体操という団体があります。そのマミーズリフレッシュ体操という親子でフィットネス体操をやるための場所が市内の大きな、ここの「い〜ら」のような大きな施設が、ちょうど埋まってしまっていて使えなかったときに、地域の自治会管理の施設を、町内会の施設だったんですが、快く開放していただきました。ママたちも、場所がすごくきれいで、広くて、とても使いやすく、体操をとても楽しんでできましたと代表から報告がありました。そういった地

域の方の支援がこういう形で行われていると思うと、すごく心強かったので、またこれからも御協力をお願いしたいと思います。

私が思っているのは、10年前とは子育て支援の環境がとても整ってきていると思うのですが、お母さんたちの失敗できない子育てというか、余裕のない子育てを感じるものがよくあります。大丈夫だよとか、毎日頑張っている今のままでいいんだよと、背中をそっと押してあげたいと思っていますが、市でもお母さんのためのプログラムに取り組んでいるんですけども、お母さん自身が自分のことを顧みる機会というのを少し設けて、お母さんの支援を計画していこうと思っています。

秋に勝間田地区にあります「ゆうゆうランド」でのお楽しみイベントも計画しておりますので、これからも行政と地域の皆さんの力をお借りして活動を進めていきたいと思いません。よろしくお願ひします。

【川勝知事】

さすが牧之原、女性がお二人トップでお話いただきました。ありがとうございました。

発言者1さん、現在の会長さんということですが、昨年カナダで花のまちづくりでトップになられたときの方は今日来ていらっしゃるのでしょうか。先ほど女神のところで御案内いただきまして、今新しく会長になられた発言者1さんからお聞きしましたら36カ所もあるんですか。すごいですね。相良と榛原が一緒になって牧之原の花の会になって、平成17年から御活動をしてこられたと。

そして、それが恐らく別に国交省から日本一の花のまちづくりをしているというふうなことを取るためにやっておられたのじゃないと思いますね。しかし国交省から花のまちづくりで日本一だということになって、それが国際的な花のまちづくりの日本代表として世界にデビューするということになって、そこで「5つ花」の最高賞を取ったということで、向こうからも大変な賞賛のお言葉を頂戴したんですけども、カナダというのは皆様方、太平洋の向こうですけども、北海道より北にありますから、したがって冬は寒くてお花が咲きませんね。ですからお花が咲く時期というのはほんのわずかだと思います。

ところがこの静岡県、この牧之原というのは、今でもペチュニアとかベコニアとか、今日も、もうあふれるような花に彩られた花の道を見てきたんですけども、春夏秋冬、何らかの花があると。歩いてみますと、桜の木が公園のところ、女神の公園のところに立派な桜がありましたけれども、あの咲く頃にチューリップの花などがそこに咲き誇っていると、ものすごいだろうなと思うんですが、春夏秋冬、すべて36カ所何らかのお花で飾って

おられているというのは、彼らにとっては驚愕だったんじゃないでしょうか。ですから私は、自分たちがあんまり知らなかったことが、実は世界クラスの財産になっているということを示された。

ちなみに2年前の連休のときに、富士山が世界の文化遺産になる候補だということで、イコモスから御推薦を賜って、それを待っていたかのように牧之原、そしてまた掛川、菊川、島田、川根本町、ここの茶草場農法が世界農業遺産になりましたね。それを何か受けていたように、富士山だけじゃありません、南アルプスもということで、南アルプスが世界のエコパークになったんですよ。そして今数えてみると、皆様方のお手元に「世界クラスのふじのくに静岡県」という1枚紙がありますけれども、今、世界クラスに認定されたものが17もあります。認定される可能性のあるものを3つ入れますと、この2年間で20になった。そのうち公式には2つが牧之原にはあると。

さらにこの2年間以外に言えば、大学者が出ております。あるいは富士山空港でも、数ある90ばかりの空港の中で、国際的な人の乗り降りのお客様の数は日本で今第8位です。ですからもう国際的な町になりつつあるということなんですね。

そしてもちろん、お茶は日本の健康寿命を伸ばしていく一番のところで、静岡県の最大のお茶畑がここにあるということですので、本当にこれはものすごいところに皆様方は生活されているんだということですが、ともかくこの活動を若い人にも引き継ぐ形で、これは本当に誇るべきことだと。

そして人が降り立つ、チャイニーズであるとか、コリアンであるとか、インドネシア人であるとか、誰であろうと、美しいものに対して、これは宗教とか文化とか国籍を超えまして感動を与えますので、だから降り立ったところが本当に世界クラスの富士山が見える、世界クラスの茶畑が見える、世界クラスのまちづくり、花づくりをしているところだということが降り立った途端にわかるということは、日本にとってもこれは誇るべきことではないかと思ひまして、この国際花のコンクールでトップになられたことをきっかけにしまして、ここをモデルにして静岡県下で花のまちづくりを進めていこうと、私は強く決心しているところでございます。

さはさりながら、やはり子供が安心して産めて、そして元気な笑い声が聞こえるというそういうまちでなくちゃならないということで、発言者2さんが子育てネットで前の会長さんとして活躍をされているということですが、静岡県全体の合計特殊出生率は1.53です、直近の数字で。牧之原は1.52なんですね。

日本全体は 1.43 人ですから、それより高いんですけれども、やはり 2.07 人、一生の間にお母様たちが、2 人くらい子供を産むというくらいがちょうど人口が減らないところなので、そのためにはやはりまず子育ての環境をつくらなくちゃいけないということでありまして、こここのところに、こういう子育てネットのお母様の、子供が少ないということで、皆お母様方が、何と申しますか、子供に構い過ぎる、逆にどう構っていいかわからないというその不安を助けるためのネットワークをつくっていただいているのは、まことにありがたい。そして、その我が子だけじゃなくて、まちの子はみんなの子だと、子育てみんなでする、これはもうぜひ、この合い言葉を、ネットワークだけじゃなくて、みんなでそういう気持ちでやっていけばと思います。

ただ、最近、産婦人科の先生方が出ていかれたということもありますが、これは私どもも分かっておりまして、何としてもお医者様、特に女医の先生方が産婦人科としてこちらに赴任されるように、市長さん、皆様方と御一緒に病院と手をあわせて、安心して子供が産めるような環境づくりを一緒にやってまいりますので、いましばらくその点は御猶予ください。

しかしお医者様は全体で少ないんですけれども、バーチャルメディカルカレッジというのをつくりまして、奨学金を平成 19 年から県外の医学の学生さんに 6 年分差し上げる。6 年分差し上げると、その 1.5 倍、すなわち 9 年間は静岡県の病院で働いてくださいというそういう試みだったのです。

私、これはすごいと思ひまして、平成 21 年から、今まで十数名だったんですが、それを 100 人に、去年から 120 人にしました。そうするとこれは、ここに大学の医学部はないけれども、バーチャルの医学部だということで、「バーチャルメディカルカレッジ」というふうに名付けまして、その学長に、この間文化勲章をとられました静岡県立大学の理事長である先生になっていただいた結果、申し込みが増えてまいりまして、今そこに登録している人数だけでも 600 名を超えています。やがてしかし、そういう人たちは 6 年間の奨学金の学生として訓練される時間が終わると、今度はそれから 9 年間はこちらでお医者様として働くという約束で来ますので、ですからすぐには言わないけれども、確実にお医者様を増やしていくということです。

しかし、お医者様を増やしてもカップルができなければしょうがないので、ですから今、発言者 2 さんが、おっしゃったように、だれかそういう出しゃばってマッチングをしてくれる人が必要なのです。ですから、皆様方、周りにそういう若い青年がいるならば、これ

はもう決めるのは御本人たちですけれども、そういう機会を差し上げて、そしてみんなで子供を育てるといふ、「子育ては命をつなぐ幸せの愛を育む尊き仕事」という歌がございませうでしょう。

ですから、これは本当に大事な仕事だということ、まち全体のだれもが協力すべき仕事だということ、一緒に子育てと、その前提となるマッチングを、こういうきれいなところですから、デートコースにあふれているというふうに思えばどうでしょうか。だからパワースポット、デートコースの花のまち牧之原でカップルが生まれるような、そういう雰囲気ぜひ発言者 2 さん、今の現会長さんと御一緒にやっていただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

【発言者 3】

牧之原市坂部地区で農家を営んでおります発言者 3 と申します。最初、この広聴会に参加の打診があったとき、断ろうかなというふうに思ひましたけれども、いい機会ですし、また今年度、僕は、茶々若会の会長という役をやらせていただひているので、その茶々若会の活動、まちづくりの活動を少しでも皆さんに知っていただければと思ひまして参加させていただきます。

まず自己紹介からさせていただきます。私は地元牧之原の高校を卒業して東京の大学に進学しました。大学では建築を学んで、県内の建設会社に就職したんですけれども、県外で7年間勤めた後、家業の農業を継ぐため、あと地元の坂部に帰ってこようと思ひておりましたので、1年7カ月ぐらい前に地元でUターンで帰ってきました。

今まちづくり活動とどう関わっているのかといひますと、大学のときの私の専攻が地域デザインということで、建築と聞くと、建物とかそういうハード的なものを建てるとか、設計だとか、そういうこともしておりましたけれども、ちょうど研究の方がまちづくりということで、ひらがなのまちづくりということで、市民参加ですとか、あと対話と協働を実現するための空間を含めたデザインなどを市民とか行政とか専門家と協力しながらつくり上げていくということをお勉強してしまひて、将来地元に戻ってきたときはそういう活動に参加してやろうと思ひて帰ってきたところでありませう。

そうしたら運がいいことに、牧之原市がそういう活動を牧之原市になってからということと続けてしまひましたので、そこは運がよかったことと、あと坂部地区が市内の地区計画をつくるので、一番最初に行政と協働で地区計画をつくっているということ、その実行段階だったということもあって、たまたま運がよく、僕はこういうまちづくりに関わること

ができました。

そして今やっている茶々若会、書いてありますけれども、「ちゃちゃわかい」と読みます、の活動にも誘ってもらいました。私の今活動している茶々若会は去年の夏より活動しています。メンバーは主に市内に住んでいたりと、勤めたりしている30代ぐらいまでの仲間構成しています。特に年齢は厳密には決めていませんし、大切なのは若いという気持ちだと思っていますので、そんなみんなで頑張っまちづくりの方をやっていきます。

茶々若会の目的は2つあります。1つ目は、地区長会からの依頼を受けて、今年度は牧之原市の中小学区のうち未だまちづくり計画の策定されていない6地区の若者を中心としたまちづくり計画をつくっていくということを1つ目の目的としています。

2つ目の目的として、地域の課題や問題を解決するためにさまざまな人と多様な場をつくるためのファシリテーション、横文字ですとわかりづらいですが、会議の進行や、その雰囲気づくりなどを学ぶこと、この2つ目などを学んで、まちづくり計画の策定だったり、あと地域づくりに生かしていこうというふうに考えています。

とはいっても、全然堅苦しいものではなくて、「気楽に・楽しく・中身濃く」をモットーに、お菓子をつまみながら話し合いやワークショップなどで去年10月くらいから進めてきました。これが牧之原市の「男女協働サロン」ということで進めています。昨年度の「男女協働サロン」では、今年度6地区のまちづくり計画をつくるに当たって、どのような計画で、どのようなスケジュールでつくっていったらいいのかということをお話し合っていました。

その中の1つのテーマで「20年後も住みたい牧之原を語ろう、考えよう」というテーマで一度ワークショップをやったことがありました。皆さん、ぜひ考えてみてください。会場にいる方も、ぜひ20年後を考えてもらいたいと思います。どんな自分になっていますでしょうか。現在の赤ちゃんは20年後、二十歳、20代前半になっています。就職しているでしょうか。また小学校の子供は、結婚だったり、あと仕事で悩んだりしているかもしれません。また50代、60代の方は定年を迎え、素敵な老後生活を送っていたり、あと孫がいたり、もしくは、ひ孫がいらっしゃる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

私たちの茶々若会のそのワークショップでは、地域の人や転入者にまちのいいところを知ってもらうために、ぜひお祭りに力を入れたいという意見だったり、あと子育ての環境が充実している市になってほしいという意見が出ました。知事は現在、先ほど聞いたら66歳ということなので、20年後86歳になっていると思いますが、20年後も住みたい静岡県

というか、この牧之原地域というのはどのように想像しているか、聞こうかなと思って、今日、僕は来ました。

あと、これは自分の興味で聞きますけれども、知事が86歳になったとき、どんな自分でいたいのかということも気になります。

私は20年後、今の活動を通して、この牧之原市が、市民のみんなが自分の地区に誇りを持って、また地域の課題を自ら解決することができて、どんな人でも住みやすい、発言しやすいまちになるといいと思っています。個人的には子供が社会人になっていると思いますので、大学へ出ても帰ってきてくれるようなまちで、地区であってほしいなというふうに思います。

私は今日知事に何を聞こうかということで、昨日ちょっと準備をしていたんですけども、家業のお茶も大変な不況な時期なので、そのことにしようかなと思って、ちょっと悩みましたけれども、ネガティブなことよりもポジティブに20年後の明るい未来を聞こうと思って今日参加しました。

茶々若会は、今年度牧之原市の6つの小学校区でまちづくり計画の策定を自治会や行政と協働で企画とか運営をしながら進めていきます。この会場でも茶々若会に参加したい方ですとか、あと牧之原市の対話の場に参加してみたい方がいらっしゃいましたら、ぜひモットーは「気楽に・楽しく・中身濃く」ですので、ぜひ参加して体験してみてください。よろしくをお願いします。

また、地方創生ということで、国としても重点課題になっていますので、静岡県を含めた周辺の市町と協力して、牧之原市だけでなく、この地域全体でだれもが住みたくなる活気のある地域を目指していけたらと思っています。以上で発表を終わります。ありがとうございました。

【発言者4】

発言者4と申します。よろしくお願いいたします。案内の方には、牧之原茶宣伝隊ということで名前を載せていただいておりますが、今日は牧之原茶の宣伝だけではなくて、「お茶うけ屋」というもう1つ「何だそれ」というような活動、個人的な活動の方を御紹介させていただきたいと思います。

私はお茶が好きで、お茶が好きでというよりも、東京に勤めていたときに、これからの時代はお茶だろうというか、日本の文化を伝えることが必要になるだろう。それは当時の20代の私が、私より下の人たちは、お茶のことなんてきっと何もわからなくなるだろうな

と思ったので、そのときに自分が伝える役ができればいいなと思って、静岡県に引っ越してきました。

根拠はなく、お茶といえば静岡という、「そうだ、行こう」というそれだけの理由で、本当に何も縁がない状態のところを縁をつくって引っ越してきたというのがきっかけになります。日本茶インストラクターの資格を取らしていただいたり、農家に2年間農業研修に行ったり、お茶を知るために、もう1つ外の枠から物を見ようと思って、紅茶や中国茶、世界のお茶を学ぶということもしてきました。そうすると、日本のことがすごくよくわかるようになってきて、外に1回出て、中をもう1回知る。そうすると両方の違いがよく見えて、自分たちの強みがよくわかるというのをいろいろ学びながらやらせていただいております。

その中で、いろいろお茶に関わって仕事をさせていただきながら、自分なりに一番おもしろいお茶の世界は何だろうなと思って、それを表現していこうと思ったのが2011年ですね、ちょうど震災の年なんです。震災の年の新茶から動こうと思ったら、ああいう状態になったんですが、私がお茶で一番おもしろいなと思ったのは、自園自製自販をしている県内各地にいる農家の人たち、ここはものすごくおもしろいんだということを強く感じました。

どうしても茶業界という大きな量産体制で、安定してクオリティの高いものを出していくという流れがあった中で、個々で自分でつくって、「自分のお茶これなんだ」、「うちの魅力はこれなんだ」ということを消費者に直接訴えてくれる。で、消費者側が質問をしても、ちゃんと答えようとして接してくれるお茶という世界がある直販農家の人たちはとてもおもしろかったんですね。

正解って1つではないんだなって。農業も正解1つではないといいますが、お茶1つとっても、全く静岡県で違うお茶をつくっていますので、このまま見せてあげることはできないだろうかということを考えて、「お茶うけ屋」という活動をしました。

「お茶うけ屋」というのは、お茶うけのお菓子を売っているお店ではなくて、お茶を脇から盛り上げるお茶うけ屋です。女性なら、そんなのはよくわかるんじゃないかなと思うんですが、もう1つはお茶で脇からを盛り上げる、飲む人たちに新しい価値を提案していく、この2つをやっていくのがお茶うけ屋だなというふうに考えて活動します。

ただ、ネットで商品を販売したりとかって思ったんですが、実際は、静岡茶といろいろな問題がありました。別に農家は悪いわけではないので、待って泣き寝入りしているのも

1つの手かもしれないんですが、これは東京に自分たちの気持ちを伝えるに行かなくてはということで、自由が丘で和カフェを1棟借りまして、農家を直接連れて行って、そこでお茶会を開くということを年に2,3回のペースでやりました。

ピークだと70~80人来るんですけども、継続すると運営がなかなか難しく、続けるのが苦しいな、個人の活動って難しいなと思っていたときに、今のスルガ銀行さん、静岡市にもできましたけれども、d-labo という夢研究所というところがあるんですが、そこで引き継いで農家のお茶会を、うちが主催でやりますよと言っていて、今はスルガ銀行さんと組んでお茶会をさせていただいています。次8月2回で、二子玉川支店でお茶会、あと静岡市のd-laboさんでも10月に農家のお茶会をさせていただいているという状態になります。

なかなか運営が本当に難しく、これは私が商売人の頭がちょっと足りなかったというのが1つだと思うんですが、今それ鍛えているところなんですけれど、農家の人たちと任意団体を今つくりまして、当面の運営を少しでも楽に、みんなが東京に行くための運転資金の何か足しになればということで、任意団体をつくって、助成金を使えるところがあるのではないかとということで動いております。

もう1つは、お茶で脇から盛り上げる、暮らしにお茶ってどんな役に立つのということを皆さん余りにも当たり前で感じていない。のどの渇きをとめるだけだと思っているかもしれないんですが、私は8年ぐらい茶道をやらせていただいて、わび茶をさせていただいているんですけども、その中でたった一杯お茶を本気で点てると、どのぐらい集中できるかとか、自分と向き合っていけるかとか、時にはふっと自分に気づいて涙するとかというちょっとうさん臭いと見えてしまうかもしれないんですけども、日本人はそういう元々何かの行為そのものにそういう精神性とか文化を載せていくというのが日本の特徴なんだなということをすごく感じたんですね。

ただ、これを茶道をみんなにやってくださいというのは難しい。着物着てやるのは難しいなと、どうやって表現していくんだろうと思ったときに、大阪に感性研究所という暮らしにすぐに役立つ心理学やコーチングなんかを身につける、学ぶのではなくて自分の体で体感して身につけていくという技術を持った会社がありまして、今期から私その静岡県の代表理事をやらせていただいているんですけども、その心理学のスキルで学んでいる体感できることと、私が茶道をやりながら体感できることが、ものすごくイコールなんだなというのをすごく強く感じたんですね。

なので、1つは地域のその風土の茶をそのままお届けします。本当はこの土地に、牧之原に来てお茶を感じてというのが一番なんです、それができないんだったら、その背景が理解できるお茶を自分のうちに取り寄せてお茶を飲んでくれというそういう提案が1つ。

もう1つは、あなたたちが暮らしている、あなたたちがたった一杯お茶を点てるだけで、入れるだけで、ものすごく安定感がある暮らしができるんですよという提案を、新しいお茶の価値、でも昔からやっているお茶の価値として、全く今度はアプローチを変えて、アメリカ発祥の心理学とくっつけて、感性研究所と一緒に共同で開発しながら1つつくっていくというのが、本当に今ホットな状態で組めるという形になったというのがあります。

私は日本茶の魅力をすごく感じていて、牧之原茶大好きです。牧之原茶好きだ、このよさを広げるためには、牧之原だけでくっついていてはだめだなというのを強く感じています。お茶のことを知らないのが当然なので、静岡にはこんなに個性的なものをつくっている人たちがたくさんいる。その集団、小さく頑張っている人たちが集まることにとても意味があるのではないかなというふうに感じています。

私自身も一匹オオカミの特徴が強くて、なかなか人に頼むということをしなかったんですが、そうではなくて、個々で自立しながらも、それを緩く集団化して、小さく見るとイワシなんです、外から見るとクジラのように見えるという、そういう活動をしていく。それで、消費者には新しい価値の提案、のどの渇きだけではない、もっと深いものをもう1つ切り口としてできていたらおもしろいのではないかなというふうに感じています。

知事に何かお願いをという話はあれなんです、新しいことをやると、過去の実績が何もないものですから、摩訶不思議に見えてしまうところがいっぱいあって、知事はそういうことをどんどんやりなさいと言ってくくださる方なので、それは本当にありがたいなって、今日のランチの話を伺っていても思ったんですが、権威のあるところに助成金でぼんと出してしまうのではなくて、裾野で頑張っている、静岡は特にお茶が好きでお茶を広めたいと言っている人たちがいっぱいいるんですよ。その人たちにきちんと活動費として小さく割って出していくような、そういうふうになってきたら、もっと個人で発信して、静岡茶をPRするような活動ができるのではないかなというふうに思いますので、またよろしくお願ひいたします。

【川勝知事】

発言者3さんと発言者4さん、両方とも共通しているところはお茶でしたね。

よくお帰りいただきまして、ありがとうございました。大学でまちづくりの地域デザイ

ンというのを専攻したというのは、大変牧之原にとっては財産です。まちづくりとかにぎわいづくりということで、それぞれ自分の経験からこうした方がいいと言えると思うんですけども、これからの時代はデザインという言葉そのまちづくりや何かに生かしていく必要があります。

なぜこんなことを言うかといいますと、21世紀になって日本に非常に珍しい大学が生まれました。2001年、浜松に静岡文化芸術大学というのができたんですけども、その大学を構想されていた方は京都大学が生んだ天才的な学者だったんですけども、この先生が静岡の浜松はものづくりの県で、何となく文化性というのを感じないので、前の県知事さんから文化系の大学をつくってほしいというふうに頼まれて、よしわかったということでおつくりになった。

そのときに法学部の先生でしたから、法学部とか、あるいは文学部とか、経済学部みたいなものをおつくりになるのかと思ったら、そんなものは掃いて捨てるほどあると。だから文化芸術大学をつくるんだと。学部というのは、文化政策学部とデザイン学部だけでいいとおっしゃったんですよ。

文化政策というのは何ですかと言ったら、日本の戦前の政策の中心は軍事政策だったと。富国強兵で強い国になるということ、今の中国みたいですね、ああいうことを日本は解釈していたと。戦後、軍事政策でやって結果的に多くの犠牲を生んだので、経済政策を中心にしたと。しかし経済大国になって、物の豊かさというのは味わったけれども、心の豊かさというものを失った。これからは心の豊かさを大切にする文化政策こそが日本に必要とされるから、文化政策部をつくれと、こうおっしゃったんですよ。

それからもう1つ、デザイン学部。芸術、これは絵だとか彫刻だとか、芸術ですけども、これは人の心を豊かにするかもしれないけれども、すぐに役に立つものではないと。役に立ち、かつ、人の心に訴えるというそれがデザインだと。これはこのように、ここにマイクがありますけれども、小さなマイクから、このような「い〜ら」のように大きな建築物、さらに牧之原というまち、小さなものから大きなものまで、動かす力はヤンマーディーゼルの時代でないと。これからはデザイン力だと、こうおっしゃったんです。

ですから、美しくかつ役に立つというこれがデザインで、そういうものを勉強してこられて、茶々若会というのをつくってこられているというのはありがたいことですね。ですから、文化芸術大学には二十歳前後の青年、大学院もありますから、そことも何か連絡をとって、このまちづくりにそういう浜松の中で勉強している連中に、この牧之原のケース・

スタディーといいますか、一緒にやると外の力がまた入ってくると思います。

さて20年後どうなっているかということですがけれども、この牧之原はどうなっているかと。私はここはふじのくに静岡県の玄関口にする、なれるというふうに思っております。

全体として玄関の条件を整えているように思いました。まず御前崎港があると。それから東名がある。それから新幹線が走って、その上に空港がある。それから1号線があって、新東名があって、金谷から御前崎まで、今ほとんど道ができ上がりつつあります。ですから海と陸と空と、そして鉄道、全部があって、しかも周りの景色が世界クラスで、そしてまちづくりも花のまちづくりで世界クラスになっているというようなところがほかにあります。しかも乱開発が全くされていません。

ですから、玄関口は具体的にどこになるかといいますと空港でしょう。これは海外の方たちがお越しになるところ。そして新幹線駅、これは2020年までにできますので、これは陸の駅になる、鉄道の駅でありますから、新幹線は、北は函館あたり、札幌あたりからそのころは来るようになるでしょう、南は鹿児島からずっと九州新幹線、それから山陽新幹線から東海道新幹線でここに来ると。

そして高速道路網は来年には豊田東から浜松までつながります。そうすると愛知から御殿場までずっと新東名がつながります。そして2020年までには海老名から今の小山町までできますので、ですから新東名ができると、そのど真ん中がここにありますから、ですからここは玄関口になるので、私は空港の周りをデザインする必要があります。

坂部、そこはもう重要な一画です。ですからあの地域は、例えば電柱は埋設するとか、それからメインの道路、お花で、きょう女神を見せていただきましたけれども、そういうお花の道に出ると。周りにティーというガーデンのシティになっている。海側に行けば、吉田町の町長さんがティーをSに変えたいと。シーガーデンシティをつくるというふうにおっしゃって、こちらのティーガーデンシティ構想がシーガーデンシティになって、このまま川根の方に行くと、これは寸又の方まで行くわけでございますから、フォーレストガーデンです、森の庭ですね、人の手が入る。そういう本当にガーデンシティになると。

ガーデンというのは、ヨーロッパ人の理想郷でもあります。エデンの園、これ英語で言えばガーデン・オブ・エデンです。エデンのガーデンなんですね。つまり本当の理想というのはガーデン。日本人は手を入れたところのガーデンと、手を入れない、富士山とか南アルプスは手が入れられません。それを借景として、その庭に入れ込むという考えを持っているでしょう。これもデザインです。そういうふうにしてできる場所は静岡じゃない、

浜松じゃない、ここならできるんですよ。

ですからそういうまちづくりをしていくと。だから細かなところからこういう小さなお花をどう植えるか。それから小さなフラワーガーデンから大きな花のまち、大きなティーガーデンシティ、大きなフォーリストガーデンシティ、大きなシーガーデンシティを、この浜松と静岡のど真ん中、志太・榛原・中東遠、ここで作っていくということです。

今すぐというわけになかなかいきませんので、けれど、そういうことを20年後ということであれば、比較的夢という形で言えるのかなと。しかし完全に夢というわけではありません。2020年までに駅はできるでしょう。そうするとあっという間にホテルをつくりたいとか、こんな店がやりたいとかいうことがいっぱい出てきます。そのときに前もって、ここはこういうことでなくちゃいけない。

マンションを建てた人はそこで見えますけれども、今度はその日陰になったところは全く景色を遮られる。全くデザインなしにやらせているからです。

ですからここは、高さ制限は木の高さより高くしない。緑とまちの高さ、あるいは色合いですね、その色合いを同じように考えて、みんなが協力して、ブロック塀も例えばそれをなるべく生け垣にするようにするとか、あるいはブロック塀もちょっと市あるいは県が補助して、壁を塗って上に瓦を入れるだけで、もう一気に風格が上がったりします。

金沢というところは行ってみてください。もう本当に見事にまちづくりしていますよ。金沢駅から兼六園まで4キロほどありますが、メインロードに勝手に通しちゃったんですよ、市長さんが。そして建物を改修するというときには、加賀百万石だからというので、江戸風にすればお金を出してくれるんです。知らぬうちに銀行が何か江戸屋敷みたいになったり、博物館が江戸屋敷みたいになったり、知らぬうちに兼六園は日本三大名園の中に入っているという、そういうことをずっと新幹線が来る前から、新幹線駅も向こうは能がありますね、謡曲もあります。狂言もありますね。そういうので、駅の形自体が鼓の形になっているでしょう。だからそういうふうにデザインしたんです。それができるのがここしかないんですよ、実を言うと。

そして発言者4さんは、「そうだ、京都行こう」「そうだ、静岡、お茶だ」あるいは「静岡、お茶だ、静岡だ」と。もうお茶と静岡が一体になってこっちへ来ていただいた。こういう人がいらしたことはありがたいことだなというふうに思います。お茶というのは一服いただいて、実際に身体的に体にいいと同時に、そのお茶をいただく、そういう立ち居振る舞いがずっと型として残って、今は煎茶道という形でインストラクターとして飲めるよ

うになったということで、これを感性を磨くという形で生かしていきたいということでやっていたらいいですね。

そしたら感性、理性とか知性とか、要するに頭でっかちのことだけじゃなくて、人間にとって本当に大切なのは、理性も知性も大切だけれども、知情意といいますように、知というのは知性です。情というのは感情です。同じくらいだった。一番大事なのは、実は意思、意欲の意、意思の意です。

感性を大切にするとき、感性が大事だということはすぐ言えますけれども、それをお茶を媒介にしてやりたいと、こうおっしゃっているの、ちょっとこの発言者 4 さんのようなこういう方が今静岡県代表で大阪の感性研究所の理事をされているということなので、私もちょっとそれを勉強させていただいて、その大阪 220 万、府も入れると 5~600 万ぐらいでしょうか、その人たちを取り込む、京都の宇治茶と対抗してやろうかなというふうにも思ったりしておりますけれども、ともかく牧之原には、今日たまたま明治 35 年にできたお茶屋さん、そこにほとんど同じくして 3 代にわたってずっとお茶を提供されてきた開拓農業の方にお目にかかったんですけども、お二人は常に、いいお茶をお茶屋さんへ供給すると、お茶屋さんはどんなことがあっても、この品質のいいお茶を使うということでやってこられた。

こういう地域の絆みたいなものが、やっぱりここには、これ一例ですけども、あちらこちらにあるはず。そしてそうした絆をベースにして挑戦をしますね。クッキーをつくったり、いろんなものをおつくりになって、今もつくればつくるものがもつともつと売れるというふうなことを語っておられましたけれども、そういう可能性を探らないといけない。

そしてお茶は、今、全世界的には伸びているんです、需要量は。それがどういうわけか、静岡県に十分に恩恵に浴せないという状況になっている。しかし全体は伸びているんですから、あるところの窓口を開けると一気に伸びる可能性がありますので、私は何としてもこの茶の都しずおか、そしてその茶の都の中の拠点は島田にございますお茶の郷の博物館、これも県が手に入れましたので、もう 1 回一からここを全体としてデザインして行って、最も美しいティーガーデンシティと、花のガーデンシティと、そして森のガーデンシティ、海のガーデンシティとして、日本の玄関口として、もう降りたら新幹線、ずっと東京、ずっと名古屋、京都に行けると。あるいは三島や熱海にも行けるということになりますので、新しい 21 世紀型の玄関をつくるということで、御一緒にやっていきたい。

それはもう牧之原だけではだめです。お隣の島田とか、菊川とか、掛川とか、吉田町だとか、そういうところと組んで一緒にやっていく必要があるので、そういうときにやっぱりコーディネーター役は、市長さん御自身の友情と、我々県とが一体になってやっていく必要があると思っております、こちらの地域には5つぐらい分けてみますと、浜松、それから静岡、その間のここですね、それから東部、伊豆半島と5つぐらいに分けますと、ここはそういうそれぞれ皆個性があるんですけども、玄関口としてはそういう交通インフラが皆さん方のためにつくられてきたような感じがしますね。

これをやっぱり美しく使っていくという、文化力が高いところをこれからまちづくりで發揮してもらいたいものですね。そのときにこういう若い茶々若会、あるいは発言者4さんみたいな人がいるのは財産だというふうに思います。ぜひもっと、先ほど発言者2さんが言っていましたけれども、マッチングというんですか、それもぜひよろしく。

ありがとうございました。

【発言者5】

皆さん、こんにちは。私は榛南青年会議所から来ました発言者5と申します。本日は本当にこのようなすばらしい機会を与えていただきまして、県の皆様、そして牧之原市、商工会の皆様、本当にありがとうございます。

人生には坂が3つあると言われていたことがあります。上り坂、下り坂、そしてまさか、今まさかの状態でおります。知事が私がここに一生懸命書いてきた内容を大体しゃべってしまって、いつかこんなふうになるのかなと思っていたんですけども、静岡空港について話をさせていただこうかなと思っていたんですけども、気を取り直して一生懸命しゃべっていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

私は静波の方で実家の会社に勤めております。住まいは牧之原市の同じく静波で、現在3人の子供がおる父親でございます。最近40歳になりまして、青年会議所といっても青年では多少ないのかなと思うんですけども、今日はちょっとお話しさせていただきます。

青年会議所といっても、この中に御存じない方もいらっしゃるかと思うんですけども、JCという言葉ではちょっと聞いたことがあるかもしれないんですけども、20歳から40歳までの青年の経済人を中心として構成されている団体でございます。私たちの榛南青年会議所というような団体が、静岡県下にも20、全国、全世界で組織している団体でございます。主にはまちづくりだとか、青少年健全育成ということで、人づくりを中心に、この地域の未来をつくっていかうと、自分たちでつくっていかうと思って、日々活動させてい

ただいております。

昨年私はこの榛南青年会議所の理事長をさせていただきました、特にこの地域の特性を生かしたまちづくりをみんなでやっというじゃないかということで、一番に考えたのは、やはりこの地域、牧之原市にございます富士山静岡空港というのが、私たちにとっても、このまちをつくっていく1つの拠点になるんじゃないかと。そして今後のことを考える上で、この富士山静岡空港を核としたまちづくりをみんなで考えていこうじゃないかということで、1年活動してきました。

榛南青年会議所は、空港が予定地になる今から30年ぐらい前から開港に至るまで、様々な形で青年会議所と空港の誘致とか、いろいろなところで関わってきました。そして昨年5年目を迎えた空港で何かできないかということで、魅力の発信基地として空港をとらえて、「はいなんSORAマルシェ」というマルシェ形式の事業を10月に開催しました。

この地域には本当にたくさんの魅力があります。人の魅力、自然の魅力、食の魅力というのを、なかなかそれが1つとして結びつかない現状として、一堂に空港に会して、そこで発見だとか発信、感覚を持って、そして多くの人に発信していこうという事業を開催させていただきました。

あのすばらしい石雲院の展望デッキをステージとしまして、大自然をバックに、そして空港とか飛行機をバックに、地域の子供たちがあそこでキッズダンスを披露したりとか、地域の恵みの詰まった食をあそこで多くの人に堪能していただくことができました。

準備の段階から空港会社の方や県の方、いろいろな方に御協力いただきまして、そして地元の坂部の皆様にも協力していただいて、当日は来場者としては3,000人を超す集客がありました。改めてあその空港というのは、この地域の魅力を発信していく場としては最適な場所なんじゃないかなということを非常に感じました。

そして、さらに知事もおっしゃっていましたが、私たちはそこにもっと注目して、今後この空港に必要なものとして新幹線新駅の構想というのをテーマに、もう1つ事業を開催しました。牧之原市の産業フェアの会場で、実際の富士山だとか、新幹線新駅というもののミニチュア版をつくりまして、そこにミニSLいわく、ミニ新幹線ですね、新幹線を通して、この地域の子供たちに乗ってもらうということを体感してもらう事業を開催しました。

そこで、新幹線新駅ができたときに、この地域どうなっているかなというのをいろいろ考えまして、その描いたものを1つの図面としてパーツ図として展示したりとか、そこで

アンケートをとったりというような事業をしたんですけれども、本当に多くの方が、なかなか夢物語のようであるんですけれども、空港できたらいいよねと。子供たちもそこに空港に新幹線が通れば、こんなものができたらいいよねというような意識を醸成するような事業をやってきました。

なかなかいろいろ話を聞いていくと、やはり国策であるとか、なかなか地元の方が言ってもしょうがないよとかという声もあるんですけれども、私たちのような若い世代が、最初からできないとか、だめなんじゃないかとあきらめてしまうと絶対だめだなということ非常に感じまして、私たちの民間レベルで、少しでもこの地域に新幹線新駅ができたという機運を高められるように、全力で昨年やってきております。

先ほどの知事の言葉にもありましたけれども、ここ最近は本当に中国便が好調だとか、時間の延長などもされて、非常に便利になるということも聞いております。2020年は東京オリンピックのときに新幹線新駅ができるというのも、本当に夢じゃないのかなと思っております。

ぜひとも知事のバイタリティあふれるリーダーシップで、静岡・牧之原市ともども引っ張っていただいて、さらには静岡空港をさらに発展させていただいて、新幹線新駅をぜひ実現していただきたいと思います。また、本当に私たちで御協力ができることがあれば、ぜひ手を携えてやっていきたいと思っております。本日はありがとうございました。

【発言者 6】

皆さん、こんにちは。地頭方の発言者 6 と申します。本当に最後になりました。本当は最初の方がいいかなと思っていましたが。

今回、地域の防災ということについて少し話をということで参りました。私が住んでいるのは地頭方地区なんですけど、市の南部で御前崎市と接している地域です。こういった地域の防災に関しまして、いろんな要因はありますけれども、地区としては地震、それとそれに伴う津波に関してが一番の関心事ということでもあります。

地区人口が約 4,700 人、小さな地区なんですけど、4.7 キロの海岸線があります。海岸から背後の山地までおよそ 300m、この間が 4 次想定 of 津波の浸水区域ですね、これになっています。そこに人口で約 7 割弱の住民が生活をしているということでもあります。

防災対策で言われるのは、まず基本は自分の命は自分で守れということであって、家庭でしっかりとやるべきことですね。これは家具や家屋の倒壊を防止すること、あるいは備蓄品、これをしっかりと備える、こういうことが命を守る、助かる第一歩というふうに言

われております。

こうした中で、自治会として区民の皆さんが少しでも安心感を持ってもらう、これにはどうしたらいいか、どう動いたらいいかということになります。そこで、これは地頭方区になりますけれども、これまでの取組の一例などについて、少し紹介をさせていただきたいと思います。

まず自主防災会の体制であります。これは平成21年だったと思いますが、駿河湾で起きた地震がありました。それを契機に、それまでは区会役員が中心であった組織、これをある程度は年数に携わってもらいたいなど。そうすることが指揮系統においても、一元化をより図れるのではないかと。こういったことなどから、自主防の役員については、区会以外の方をお願いするなど、見直しをして、強化を図ってきております。

また、東日本の震災、特に津波被害、この実情を映像で見て驚愕をいたしました。いち早く区民の方から避難路についての話が出てまいりました。目標としては5分以内、海拔で15m以上のところに避難できるように、そうした目標を持って、各世帯の皆さんと一緒に現地を確認をしました。15カ所、緊急避難地を決めました。堤防のないところなど、これは裏山に逃げるということを基本に、市の助成事業、こういったものを使わせていただきながら避難路の整備を進めてまいりました。

この避難地に安否確認、初期の段階です。安否確認を含めた避難人員を掌握、これをスムーズに行われるように、目でも確認できますので、避難箇所に世帯主の名前を書いたカードをボードにつけておく。避難したら、そのカードを動かす、移動させるといったことを行っています。訓練に際しては、かなり迅速なことができます。

しかしながら、本部間との情報の通信手段であります。当然訓練では携帯が使えますけれども、市から貸与されています無線機であります。山の影響もあるでしょう。全く使い物にならない、不可能であるということでもあります。実際に起こった場合に、こうした初期の段階での対応というのが非常に困難になると思います。

ほかの自治会の方でも、こういった同様のことが起きているところもあると思います。市の方にも何とかならないかなというふうな願いをしてきておりますけれども、なかなか大変だということで、今回は余り県の方をお願いを言うのはどうかなという部分もありますけれども、県の方でもこうした通信機器の関係について御検討いただければというふうに思います。

それから市の事業で、避難路の整備が実施されます。この避難地のところに、これは区

で防災倉庫を設置いたしました。特に海岸部で避難の際、持ち運びが大変な毛布など、かさばるものですね、これについてそれぞれの御家庭でもって用意をしてもらって、それをまとめて倉庫の方に保管する、こういったことについて、また区民の皆さんと相談しながら検討していきたいというふうに考えております。

それから最後、防潮堤の整備に関してです。これについては地元としては合意形成を図っていくということに今努めているわけなんですけれども、いち早く牧之原市、そして地頭方地区において本年度から実施というようなことを聞いております。大変ありがたいお話で、避難時間を稼ぐ、こういったことにもつながってまいりますので、多くの地区も待っているところであります。

各説明会、これも予定されておりますが、これまで防潮堤の利用や景観といったこと、あるいは排水対策、こういったことに対して地区の方からいろいろな要望も出ささせていただきました。県からも極力要望に対して配慮をしていく、こういった旨のお話も伺っております。

これからも説明会場で新たな提案なども出るかもわかりませんが、できるだけ早期に工事を始めていただくよう、地元の合意形成に努めていきますし、対応をお願いをいたしまして、まともはありませんでしたけれども、以上とさせていただきます。ありがとうございました。

【川勝知事】

どうも発言者5さん、発言者6さん、ありがとうございました。

商工会議所の青年部というのは、先ほど聞いたら45までだそうですね。それから農業経営士は今40までになっているんですが、農業経営士も静岡県は健康長寿が、何しろ女性76歳ですから、農業経営士も今まで40歳だったのを45歳まで、青年農業経営士を延ばすというふうになっております。ですから人生区分が、この青年会議所というのは世界の組織ですから、100年ぐらいの歴史があると思いますけれども、青年というのは40歳未満だということになっているんですね。

この間、65歳で高齢者というのは間違っていると。75歳で後期高齢者というのはもっと間違っているというふうに言われていました。御当人は103歳だと思いますけれども、文化勲章ももらわれて、立派な病院の院長先生です。この先生は4歳から17歳までが少年、18歳から35までが青年、35から70代までが壮年と。喜寿になって77で老人の見習いで新老人になると。88でめでたく米寿になり90。90は九・十と書くと卒業の卒の略字になり

ますので卒寿といいますが、新老人を卒業して長老になるんだそうです。

ですからこれをベースにして言いますれば、今は青年会議所で、これから商工会議所の青年部が 40 代前半までですから、18 歳でこれから選挙権が出てくる。18 歳から青年に入って、40 代前半までが青年、40 代の後半から 50 代前半までが壮年前期、50 代の後半から 60 代の前半までが壮年の中期、60 代の後半から 70 代、これは差がありますけれども、女性の場合は 76 歳ぐらいまでが壮年後期、それから新老人に入ると、こういうふうに静岡型の人生訓を変えたいと。

私 66 歳ですから、壮年の後期に入りつつあると、こういうことでございます。元気いっぱいですから、お茶を飲んでいけば、全然元気活力いっぱいでございます。

そういうことですが、青年会議所のトップとして、去年は石雲院の展望デッキで 3,000 人の人たちを集めて、皆さんで楽しく 1 日過ごされたというのは大変ありがたいことございました。

石雲院の展望デッキも行かれたと存じますけれども、一番最初はデザインを、ものすごくきれいなものをつくって、建築家の先生が持っていったんですよ。そうすると、御住職が、「これはハイカラ過ぎる、だめじゃ」、御前様という方がそうおっしゃいました。「それでは御前様、どのようなものであったらよろしゅうございませうか」「うーん、そうじゃの、少し考えてみる」とこうおっしゃって、檀家の人と一緒につくったのが、何か金閣寺みたいなものだったんですよ。

それでもう一度やり直しているうちに、円相というのが禅でも大事な言葉だということで、円、どこにも角がない。そして「これはいい」というふうに御前様も言っていただきまして、ちなみに御前様というのは、私は寅さんの中にしかいないと思っていたら、こちらの方たちは御前様というふうに彼のことを言うんですね。ともかく御前様の大変なお気に入りで、「石雲院デッキ」と御前様が揮毫されたものがありますので、これもデザインなんですね。

外から名建築家が出したものと、地元の人意見を入れてやりくりしているうちに、最終的ああいう形になったんですよ。ですから、最初我々は仕事としてデザインを出す必要があります。これを地元の人にもんでいただいて、もう 1 回 1 から 2 から 3 からとやっていって、だれもが納得できるものがそこに入るというふうにしていきたいと思えます。

それから発言者 5 さんが、駅をつくってくれ、つくってくれと言うのは、何か地元の要求で何となくはしたくないというそういう感じがありましたね。ここは偉いと思えます。私

は国が決めるから国策ではありません。国策にとって重要であるということ言うことが大切なんです。

そして、あそこで平成 23 年のあの震災の後、その年に大規模な防災訓練をあその空港でやったのは御存じでしょう。国交大臣が、あそこを大規模な防災拠点とすると明示されたわけです。

それから、御嶽山の噴火があって、富士山が噴火した場合には、降灰は皆、東の方に行きます。そうすると羽田の飛行場が使えなくなります。噴煙というのは雲じゃありませんから粒子ですから、エンジンが回らないわけです。ですから横田基地も使えない。場合によって成田も使えなくなるかもしれない。したがって使えるところは、その反対側で近いところ、富士山空港だと。だから富士山空港を首都圏空港の 1 つとして入れるというふうに予算委員会で何度も答弁されました。ですから東京オリンピックのためになるということなんですよ。

そして、今中国から 7 月、8 月入れますと、5 月、6 月で 5 便新しく就航路が増えましたが、さらに 2 つ増えて、全部で 13 になっています、中国。この間まで上海と武漢だけだったのが、あつという間に 10 を超えます。それどうして来るのかというと、羽田の発着枠がもうないので、静岡だとすぐ降りてどちらにも行ける。京都にも行けるし、そういうちゃんとした理由で来ておられるんですよ。ですから羽田の足りない分をちゃんと補える、だから日本のためになると。

ですから、日本のために静岡県の牧之原、この志太・榛原が何ができるのかという観点でいくと、ちゃんと日本全体の中で静岡県のことを考え、静岡県の中で占めるこの牧之原の位置を考え、何が静岡県のために、また日本のためになれるか。差し当たってはワールドカップがあり、またオリンピックがある。そのときにここは何ができるか。

その何ができるかということを考えるだけじゃなくて、それを実施していくことが、訓練などを通して、どうですか、ああですかというようなことで議論をして、なるほどそういう周りの味方をふやしていく。

今もう去年の暮れから予算を通しては御存じですか。もうちゃんと空港、ティーガーデンシティの駅の周りの絵を今、交通基盤部長にかいていただいて、そのうち皆様方にお見せして、これでいいかどうか、石雲院展望デッキ、そういうところから、さらにもっと大きなまちのデザインも提示して、ここを玄関口として恥ずかしくないようにしていこうということなんです。ですから 2020 年までにつくりますから。

さらにもうちょっと言うと、もっと役に立つやり方があります。リニア新幹線ができる、言うまでもなく「のぞみ」が、つまり名古屋と東京を一直線でぱっと結んでしまうもののその機能は時速 500 キロ以上でいくから、あっという間に行けるので、リニア新幹線の方に「のぞみ」の機能が移るので、「ひかり」と「こだま」だけになりますから、確実に駅ができるんです、そのときには。

しかし 2027 年と言っているでしょう。2020 年のオリンピックのときに、じゃどうしたらいいか。そうすると、リニア新幹線だって、あれ 240~250 キロです。そのうち 90%ぐらい、85%かな、ぐらいはトンネルなんです。あそこは、アルプスの下を通ると、ひよっとすると水が少なくなる可能性があります。

だから今相当我々は神経を尖らせているわけですが、最初東京の品川から大月を経て甲府に来ます。そしてアルプスの下を抜けて飯田に入って、そして名古屋に抜けていくわけですが、その甲府から東側、これは基本的に関東ローム層ですから、地質構造がわかっているわけです。大体直線距離で 150 キロですね。だから 500 キロで飛ばせば、10 分足らずで出てしまうんですよ。そこまでは最初につくったらどうかと、この間、大臣に私申し上げました。2020 年までにですよ。

そうすると、全部地下鉄ですから、空飛ぶ新幹線なんですけれども、大地の 50m 下のところを通っているんです。50m 下だと大深度といいまして、土地を買わなくていいんですよ、タダなんです。だから地下鉄にしているわけですが、そうすると品川というのはビルばかりでしょう。ビルの森です。そこで乗ったと。そして座るなり、立っているなりして、10 分ほどしたら、はい、甲府に着きました。

出たらどうでしょう。富士山、駒ヶ岳、南アルプス、八ヶ岳、秩父連峰、日本で最も美しい中庭ですよ。ですからあそこはふじのくにとあって、我々は裏とか言っているでしょう。言っちゃだめですね。こちらが表、おたく様は奥です。ふじのくにの奥座敷。奥座敷にふさわしいそういう山々に囲まれている、そこに出るわけです。これはめくりめくような体験だと思います。

そこから中部横断自動車道というのがあと 2 年後に甲府から静岡までずっとおりてきます。2 年後です。同時に身延線が走っています。これは世界で一番遅い電車です。世界で一番速い電車から、世界で一番遅い電車でのろのろ、のろのろと来て、景色を見ながら、富士川のほとりをおりてくるわけです。あるいはレンタカーで中部横断自動車道、あるいは 52 号線をさっとおりてきて、静岡に来て、既存の新幹線に乗って富士山空港駅から帰る

と、「これどうですか」と大臣に言ったら、「ああ、これはさすが夢のある計画ですな」と言っていました。

逆に富士山空港におりたら、新幹線に乗って、いきなり東京へ行くよりも、途中で身延線に静岡なり富士駅で乗り換えて、それで甲府に着いて、甲府からリニアに乗ったと。乗ったと思ったら、あっという間に東京の街中に入る、これを経験させるだけでも観光になります。そういうふうにして使えますよと。リニアとも、アルプスを掘るとか掘らないとか言っている前に、まずリニアを2020年までにつくって、つくり方も、第1工期は甲府より東だけすればどうですか、うーんといってまだ考えていますが、なかなか人は決断しないんですね。しっかり考えていくとそれが実現可能であることがわかるんです。

そういうふうにして、このところから日本の紹介に生きてくるんですよ。これが私は空港に対して持っている、日本に対して役に立つことのできるこの地域です。こちらにたくさんの方が来るに違いないと思うので、そのときまで、標識であるとか、あるいはメニューなんかについても、いろんな言葉で、あるいは絵で描いたりしてわかるようにしておくということも大事で、一挙に国際化しますよ。

ですから、高校生は皆パスポートを持っている人は、18歳ぐらいまでには外国を経験するように、先生も含めてですけれども、した方がいいというふうに思っているわけです。

さて一方で、この静岡県は1979年、昭和54年から東海地震説のために、2兆数千億円出してマグニチュード8クラスの津波、地震に対して、ほぼ9割方終わっているんです。ただ南海トラフの巨大地震というのは、マグニチュード9というふうに言ってきました。

マグニチュード9というのは、マグニチュード8よりも1ポイント上がっただけですけれども、エネルギー量は32倍になります。そんなのは経験したことがありませんので皆震えているんですが、マグニチュード8クラスについては終わっているんですよ。だからそんなに怖がる必要はない。マグニチュード9の南海トラフの巨大地震というのは起こったことがないんです、今まで。

それで、さはさりながら、言われたらやらなくちゃいけないということで、2013年から、13年ですから今2015年でしょう、もう既に3年目に入っておりますけれども、今どれぐらいか、1,300億円使っておりますけれども、ひょっとしたら亡くなる人が増えてくるだろうということなので、それを8割減らすということでやっているわけですね。一番怖いのは何といっても津波です。

津波については、やり方は静岡方式というのがございます。今、発言者6さんが言われ

ましたように、地元で合意をしたらというふうに言われているでしょう。合意して得をしたということがあります。例えば浜松ですと、合意をしましたので 300 億円が寄附されました。それでセメントと砂利と、それから砂を混ぜて、CSGという基礎をつくって、その上に盛り土をする。13mのものをつくる。お隣の磐田はどうするか。15mの盛り土をする。お隣の袋井はどうするか。命山をつくります。

お隣の掛川はどうするか。ここは緑の防潮堤をつくります。松はクロマツは植えない。植えてもいいけれども、クロマツは陸前高田 7 万本が全部流されました。奇跡の一本松が残った。それも枯れました。だからクロマツは潮風を防ぐにはいいけれども、津波には全く役に立たない。残った木がある。それはドングリをつくる木だと。こういう木を植えると、実は 3 年 4 年最初の世話をすると、あとは自然にでき上がっていくと。これは倒れないというんですよ。その写真もを見せていただいて、それを掛川は緑の防潮堤づくりを市民と一緒になさっておられます。

あるいは吉田町は、命山の考え方を吉田公園のところで、公園の中に丘をつくる。それは実は命山なんですけれども、そうは言わない。逃げるときにはそこに逃げればよろしいと。あるいは歩道橋を避難タワーとして使えるようにしました。

それぞれ皆知恵を出されている。その知恵を決まればうちは一緒にやる。なぜこういうふうにするかという、宮城県なんか見てください。全部 15mの防潮壁を、コンクリートで 15m、4 階建てぐらいですね。3 mとしても 5 階建てになります。そうしたものが海岸線に 400 キロにわたってつくるというんですよ。そんなものができるのは困ることになって、地元の方に反対者が出てきて、だけど知事さんはやると。ものすごい対立になっているでしょう。

静岡県はものすごい津波が来るかもしれないと言われて、だれもこのやり方について反対をしないと言わない。なぜかという、地元の意見を聞き、決まったら、じゃそれでいこうとやっているからです。それぞれ皆地元の知恵が違いますので、一番簡単なのは盛り土ですけれども、じゃその土の供給はどうするかということが次の課題になる。じゃどういう木を植えるか、その次の課題になります。こうしたことをしっかり話して、決まればできるということです。

そういうことをございまして、これが静岡方式として一緒に考える。もちろん地震だ、津波だ、さあ逃げろと、これが基礎です。ですから避難ルートということが大事で、同時に安否確認も大事ですから、情報機器についても、具体的にしているはずですので、どう

いう機器の御提供があるか、あるいは情報提供ができるかというのは、具体的に地頭の方々にお知らせするようにいたしますけれども、情報、人、これが非常に重要です。情報収集が一番大切で、一人一人の情報がわかるように、あるいは一人一人にお伝えできるようなシステムを今我々もつくっているはずですから、それが地頭方に伝わってないとすれば、それをしっかり御説明申し上げるようにしたいというふうに思う次第であります。とりあえず以上であります。ありがとうございました。

【質問者 1】

私、牧之原市の静波区から来た質問者 1 といいます。よろしくお願ひします。

きょう出席の皆さんは、知事を初め、未来志向の話がされたんですけど、私はあえて牧之原市の過去の歴史にこだわって話をさせていただきたいと思います。

提案なんですけど、牧之原市のジオパークの認定は可能かどうか。大分前に伊豆半島はジオパークに認定されたというニュースがあったんですけど、そこで私が住んでいる牧之原市を考えた場合、ジオパークの資格があるんじゃないかと思っています。

その理由の 1 つは、太平洋側で唯一の石油が出る相良油田があります。相良油田は明治の初めは 1 日約 720 キロリットル、これを手掘りの井戸で産出しました。またこの菅山地区では、1 万年以上前に生息したナウマンゾウの牙も見つかっています。また近くには約 3,000 万年前に南から移動してきたと言われる石灰岩の山が 2 つあり、高さ 90m の帝釈山には亜熱帯の珍しい植物が今も生き残っています。

また、日本一の茶園がある牧之原台地は、明治の初め、徳川の幕臣が刀を捨てて開拓した台地であります。太古の昔は牧之原台地も海の底でした。また、ほかには美しき榛南の砂浜、それから駿河湾は湾では珍しい 2,000m 以上の深さがあります。

以上のように牧之原市は非常に貴重な自然に恵まれています。牧之原市がジオパークに認定されれば、ふるさとを再認識し、地域の活性化につながるのではないのでしょうか。以上です。

【川勝知事】

ともかく日本列島全体がそういう地質的には興味深いところがあるのですが、実は伊豆半島は国内のジオパーク委員会が日本のジオパークとして認めてくださったんです。そしてそれを前提にして世界のジオパーク、世界水準のジオパークにするかどうかを今年の秋にお決めくださるんですよ。だから今まだ世界クラスになっていないんです。

この伊豆半島がその世界ジオパークになるかどうかというのは、私はなると思っています。

すけれども、もともとフィリピン海沖にできた火山島だった。父島と母島のあるところ、小笠原島ですね。そこのところにボーンと新しい島ができていでしょう。ああいうふうな島でできたものが、200 万年ほど前にできたものが、だんだん、だんだん 100 万年ぐらいかけて、100 万年です、本州にぶつかった、その島が半島になっているんですね。そういう意味で本当に珍しいと、非常に巨大なものです。

ですから、あるいは関東平野ですら、実は高崎というのは陸の端ということですから、そこまで海の底でした。ですから珍しい地形というのはいっぱいあります。南アルプスが、もしジオパークになるとすれば、そのときの候補かなと言われているんですが、いずれにしても、牧之原台地の持っている地質学的な珍しさというのは、これ今せっかく質問者 1 さんお勧めいただいたのは、これは子供たちも含めてみんなの共有財産になるといいですね。

そして今度ジオパークについての専門家に御相談いただいて、こうした今おっしゃったようなことがジオパークになり得る条件になり得るかどうかと。やっぱり学者の意見という学問を大切にしないといけませんので、学者の意見を聞きましょう。

帝釈山というのは、今の女神のことですか。男神山ありましたね、とんがり山、あれも珍しいですな。ともかく男神もあり、女神もあるわけですから、そのあたりどうしてかというの、これはまことに興味深いことで、私も聞いていておもしろいなと思いました。いきなりジオパークに持って行く前に、1 回専門家の意見を聞いてみてください。私自身は即答ができる力がありません。

しかし、今日の牧之原の茶畑ができた経緯まで御説明なさっていただきまして、こうした知識を子供たちが皆学んでいくことが大事じゃないかと、教科書で学ぶよりも地域をテキストとして学ぶことということの大切さを今おっしゃったような気がします。ありがとうございました。可能性がないと言っているわけじゃありません。

【質問者 2】

牧之原市の旧相良町に住んでおります質問者 2 と申します。

静岡県で主人と自営業をやっているんですけれども、人口流出がすごい激しいと思うんですよ、日本全体でなくて。本当に仕事をしていまして、子供の数も、私が嫁いだときに比べてものすごい勢いで少子化、高齢化が進んでいまして、日本としても少子高齢化が先進国の中で本当にものすごい勢いで進んでいて、それに国の対策ですとか、県の対策が追いついていない感じがします。

やっぱりエネルギー対策ですけども、浜岡原発があるということで、若い世代が牧之原市に住みたくないという、怖いですよ、地震が3.11があつてから、活断層の上に、あと海岸線沿いに建っている浜岡原発を自民党政権に戻ってから、国としてまた原子力を稼働しようという動きが感じられるんですよ。私は本当に少子対策というのは、日本全体としても、オリンピックとかよりも本当に少子化だと。

子供の学力向上ということのスウェーデンのように力を入れて取り組まなければいけない一番のあれだと思ふんですけども、ちょっとそういう面に関して、この間議会報告会に初めて出席させていただいたんですけども、予算のかけ方も土木の方が多かったんですよ、教育費よりも。

それは民主党政権のときは、本当に子育て手当をふやす、物よりも子供ということで、方向転換したのですごい期待したんですけども、結局、今の自民党政権に逆戻りして、物よりも私は本当に子供の教育とか、これから未来の子供のためにお金をかけていくべきだと思ふんですね。

ですから逆行していて、今本当に子供にかけるといふよりも、浜岡原発の壁をつくることですか、津波避難タワーとか、そういうものにお金がかかっている、予算のかけ方とも非常に間違っていると思ふんです。何で日本は火山国なのに原発に固執して、新しい地下の地熱ですとかを利用したりする方にエネルギー政策とかを転換しないのかなといふのは、非常に子育て世代として疑問に思っています。

知事はその辺はどういうふうにお考えか、ちょっとお聞きしたいなと思いますので、よろしくをお願いします。

【川勝知事】

同じ心配を持っているんですね。それで静岡県はある時期377万6,000人だったんですよ。3,776だから富士山の高さと一緒にいいなと思ったら、今は368万人になりました。377万ぐらいだと、四捨五入すると380万ということで、静岡県民380万と、6年前に数字は380万だったんですね。今は370万、さらに368万台まで落ちてきました。あつという間に静岡県の人口は360万という時代がきかぬないということで、人口減少というのは非常に深刻です。

同時に人口減少は2つの原因がありますね。人が出ていくということと、子供が少ないということ。それで子供については、もうこれが一番大切だということで、大体皆がよいパートナーに恵まれて2、3人欲しいというふうには、子供は2、3人がいいという人が

多いです。8, 9割がそうです。1人よりも2人、あるいは3人ぐらいがいいと。男の子だけでなく、妹がお姉さんが欲しい、女の子だけでなくお兄ちゃんか弟が欲しいとか、2, 3人ということで、それで2, 3人生まれるようにすればいいということで、そのためにそういうアンケート調査をもとにして、それぞれの市町で合計特殊出生率という女性が、平均ですけれども死ぬまでに2, 3人産めるようにしましょうと。

これ数字が出てきますので、この間まで1.43だったのが1.53にまで上がったんですよ、静岡県は。しかしこれは市町で差があります。ところが、例えば裾野市ってありますね、東の方に。裾野市は1.62が今1.82にまでなりました。0.2ポイント上がったんですよ。それから長泉町、これは1.72だったのが1.82になりました。ですから私は場所によって子育てを非常にうまくしているところがある。非常に低いところもあります。これ大都市だからいいとか、小都市だから悪いということはありません。ですから、差し当たっては長泉町とか裾野市とかというふうな成功事例をどうにかしらというふうに疑問を持っていただいて、私どもも今調べていますけれども、必ずそれは2.07まで持っていけるということをやっています。

ただ社会流出というのは、これはやはり静岡県、もし南海トラフの巨大地震が起こったら、内閣府が11万人は犠牲者になると言っておられたでしょう。それは怖いですよ。ですから私どもは沼津とか静岡市とか、実は沿岸に位置する市町の人口流出が多いわけですね。焼津もそうです。だけど焼津の人口は一体どこへ行ったんでしょうか。藤枝でしょう。藤枝の人口は増えているんですよ。ですから、社会流出というのは、東京に近い沼津などは、東京圏に行く人が多いようですけども、これはそういう南海トラフの巨大地震というのを政府が発表したからです。

それに対してじゃ何もしてないかという一生懸命やっていますので、社会流出も必ずとまるというふうに私は自信を持っています。ちなみに政府の批判をしても始まりませんけれども、我々のところはマグニチュード9クラスのものが起こり得ると言われました。首都圏は直下型の地震、これがマグニチュード7クラスのもので70%の確率で起こると言ったんですよ。マグニチュード7だと、32分の1の32分の1ですから、マグニチュード9に比べると1,000分の1以下なんです、エネルギー量は。それが起こると言ったんです。

ところが関東大震災というのはマグニチュード8です。江戸の安政の大地震もマグニチュード8です。元禄の地震もマグニチュード8を超えています。起こっているんですよ、そこで、過去に。それを言わないんです。こちらは一度も起こったことがないんですよ。

だけと言うんです。

だから私、防災担当大臣に「あなた、うちは起こったことがないのに、何でマグニチュード9なんて言うんだ。マグニチュード8クラスについては全部準備して、2兆円以上使って、日本で最も安心なところだ。あなたのところはマグニチュード8が起こったじゃないか。何でマグニチュード7というふうなことを言うんだ」と言ったら、「それはマグニチュード8とかマグニチュード9なんて言っちゃうと、東京から皆人が逃げていくじゃないか」「君、それはダブルスタンダードだ」と余程言おうかと思ったんですが、大臣に対して無礼だから、私は気が弱いので黙っていましたけれども。だからそういうことがあって、人が怖がるのは当たり前だと。

それから浜岡原子力発電所、これが事故起こったら大変ですね。じゃ今全国に9つの原子力発電所を持っている電力会社がありますけれども、ここで安全対策を人から言われる前にやっているところはどこでしょう。中部電力以外にありません。今防潮堤をつくっているとおっしゃいました。あれは18mを22mにかさ上げして、ほぼ終わりましたね。これはこれぐらいの大きな圧力がかかると、耐えるにはこれだけの力を持つ防潮壁をつくらなくちゃいけないということで、名古屋大学の先生方が、我々の前で実験の結果を見せていただき、それを別の専門家の前で御説明いただき、質問に答えていただいているもので、これは子供を守るためです、親御さんを守るためです、社会を守るためにつくる。

それから非常用電源についてもやっています。それから原子力の安全のための研究をしてくれといったら、研究所をつくりました。浜岡原子力の発電所の中にです。勝手な研究をしてもらったら困るから、研究は公募してくれと言ったわけです。そしたら83件の応募があったんですよ。

それに対して10件選ばれたんです。そのとき1,000万円の研究費をつけられた。あなた方は防潮壁には3,000億円つけておいて、1,000万円じゃ少な過ぎる、ゼロが1つ足りない。今1億円の研究費をつけてもらっています。ですから安全のためにこれ以上できないことをやっているんですね。

ちなみに、永久停止だとか廃炉だとか言うことは簡単です。しかし、一番大きな施設、そのプルトニウムそれ自体を再生産しながらエネルギーを起こす「もんじゅ」というのがあります。これは日本海側にありますけれども、これは事故を起こしてから、もうどうしていいか、政府の方針が決まらないために、この間気がついたら1万点以上の、何と申しますか、故障が見つかったというわけです。つまり、きちっとしたメンテナンスをやってな

いですよ。つまり廃炉になるかもしれないなど、廃炉になるだろうと、そうするとそこで働いている数千人の方たちがやる気がなくなるのです。

ところが、浜岡原子力発電所は 3,000 人働いていますけれども、ここは安全技術の、安全文化の、原子力の、日本における最高のメッカになり得るといふことで目を輝かせて働いているから、実を言うと、もちろん原子力発電所それ自体は事故を起こしたら一番危険です。しかし、その事故を防ぐためのことを最も良心的にやっているのは中部電力である浜岡原子力発電所であることは、ほかの関電、あるいは九州電力と比べてみてください。

だけど私どもは、なぜそういうことができるかという、これは原発に依存しているエネルギーの量が、我々が一番低いからです。ですから今あなたが言われたように、自然エネルギー、太陽光だとか、地熱だとか、温泉熱だとか、水力だとか、風力だとか、それに思い切り切り替えています。ですから全く同じ気持ちでやっているんですよ。

これは子供のためにやっているんです。未来世代のためにやっているんですよ。ですから、子供だけの教育に使って、全部使って、そして津波で持っていかれたら何もなりません。だから安全なところでやらなくちゃいけない。公立の小学校、中学校、高校、そこで耐震性日本一です。全部終わっています。そんなところほかにどこにありますか。そういう何のためにやるか、お金使わなくちゃいけませんけれども、子供の安全のためなんです。未来世代を確保するためなんです。ですから両方必要なんです。

じゃ子供の教育費を削っているかという、そんなことはありません。

ただし、これからは私も総合教育会議というのに入りまして、そしてさらに学校の先生だけじゃなくて、こういうリーダーの方たちですね、牧之原のことをよく知っている方、お茶づくりの名人、お花づくりの名人、そういう人たちも子供たちにとっては先生になり得ます。ですから社会総掛かりで教育をしていこうということで、教育に対しては最も力を入れておりますので、まだ十分にこの予算なんかについて、そのように印象を与えれば、つまり教育費を削って何か土木に使っているというふうに思われているとすれば、それはちょっと誤解であるというふうに私は思っておりますので、疑問があれば、具体的なことに即して言っていただければ、私どもの方できっちりと説明できると思います。

若者が怖いと思っているのは間違いありませんけれども、しかし実は怖いから逃げるといふふうにしなくて、何が怖いんですか、怖いところを真っ直ぐ見る。どこが怖いんですか、どこが危ないんですか、ここですか。ここをどうしたらいいんですか。そういうふうにして、例えば 1 号機、2 号機は廃炉になるんです。その廃炉の技術で、余りにきちっと

やるものだから、国際原子力研究所というのがあります、I A E A、ここが一緒の共同研究をさせてくれと言ってきました。

ところが同じ I A E A は、福島第一原発について、あそこはいい加減なことをしていたというふうにして、この間報告書を出して、恐らく総会でそれが認められます。うちについては、余りきちっとしているから、その研究を一緒にやらせてくれと言って、去年か、ことしの初めだったか、それからアメリカの日本における中央電力研究所に当たるところが一緒に研究をさせてくれと。

ですから世界中の原発は危険なんです。その危険に対してそれを防ぐ技術、あるいは廃炉にするときの廃炉にする技術を持ってないと安全を確保できないので、ですから私は 3,000 人働いている人の安全のために頑張ろうと。周りの人ももちろん大事ですよ。そこで働いている人は、地元の人がそこでお兄さんやお父さんが働いているわけですから、その人たちの安全を考えて、その人たちのやる気が失われないように、中部電力を敵と見ないで、運命共同体と見て、そうすると向こうも信頼してくれるから、何もかもすべての情報をくれます。あんまりオープンにしているから、それが世界に伝わって、こんなことやっているなら一緒にやらせてくれということになっているんですね。

ですから一般論としてその危ないところに建っている危険な原発だということはわかっていますが、じゃその危なさをどのように回避するかということ、人知の及ぶ限り今やっているのが浜岡原子力発電所に対する私どもの態度です。

十分でなかったかもしれませんが、御安心ください。